

こけし 浄瑠璃

原作・脚本：桜井真樹子

はなこのおむこさん

4月22日は「地球の日」@ jiyuugaoka Mardi Gras

2011年。アラブの人にとって、日本人にとって忘れられない年。東日本大震災。アラブの春。それは同じ年の出来事だった。チュニジアで焼身自殺をした青年・ブアジジ。南三陸で津波で亡くなった女性・はなこ。共に不慮の事故。失われた命。伴侶を探す若き者たちの旅。彼らの冥福を願う物語。



桜井真樹子 (歌、語り)

龍笛を芝祐靖に天台宗大原流声明を中山玄晋に師事。1997年「もののけ姫」のエボシ御前を見て、白拍子の復元を始める。雅楽の左舞、インドネシア舞踊の「スリンピ」を学び、全国の中世の舞踊を現地調査し、白拍子の歌謡に振り付けを考案していった。「鬘多々良(びんたたら)」「水猿曲(みずのえんきょく)」「蓬萊山(ほうらいざん)」「廻惚(かいこつ)」など、20年に渡り公演を続ける。また2007年より創作能「マンハッタン翁」「橘の姫」「岸辺の大臣」などを発表。2019年よりハイパー能「沖繩平家物語」「睡蓮」「投石」を発表する。

まきこの会 <https://www.mari-pla.me/makikoclub>
ホームページ <http://www.zipangu.com/sakurai/>



杵屋浅吉 (三味線)

長唄三味線演奏家。江戸時代より続く杵屋佐吉派の当代 家元七代目佐吉の長男。手ほどきは祖父・五世佐吉、父・七代目 佐吉。長唄を杵屋佐登代、今藤尚之、三味線を故東

音田島佳子、今藤長龍郎の各師に、ピアノを仲野真世、楽理を二橋潤一、トランペットを植木保彦、山本武雄の各師にそれぞれ師事。3歳での初舞台以来、代々伝わる伝統の上に多様なジャンルの経験を重ね合わせ、独自の奏法・音楽理論・指導法を展開。全国各地の演奏会、舞踊会、歌舞伎公演等に出演する一方、正しい江戸を現代に伝えるべく、古典にこだわりつつも即興から作詞作曲まで三味線一挺でこなし、弾き語りライブや他ジャンルとの共演、演劇作品への参加等幅広く活動中。



塩原庭村 (長歌・語り)

東京藝術大学音楽部卒 長唄唄方、演出家 京都妙心寺大法院閑栖 松岡宗訓調禪師に入門し、薫陶を受け「庭村」の名を賜る。在学中に浄観賞を受賞。2000年 文化庁文化芸術インターシップ研修員に選出される。2009年「邦楽夜会」で渡邊英綱賞受賞。2010年「三七郎の邦楽サロン」開催、2013年 ニューヨーク・ライブアーツ「bell」公演に音楽デザインならびに出演し、ニューヨークタイムスに、その唄声が高く評価される。2014年ピアニスト・音楽家プロデューサーのパク・チャンスによる韓国公演や日本・中国・韓国で同時開催された「oneday Festival 2014」、渋谷PARCO「志の輔らくご」に出演するなど、近年その活動は多岐にわたる。2014年より「三七郎の会」を主宰している。2020年 杵屋三七郎の名を返上独立し塩原庭村に改名。日本の伝統芸術や音楽を尊重し、他ジャンルにも飽くなき挑戦をし、現代に生きる古典という三七郎独自の世界を生んでいる。



立岩潤三 (ドラブッカ、レク)

ドラブッカをス・パンパニン/セルゲル・バグティル氏に、タブラを吉見征樹/ブラフーラ・アタリーに師事。グレン・ベレスからフレームドラム、ファルボード・ヤード・ドゥラーヒからトンバクのプライベートレッスンを受ける。中近東〜インドを主とした各種打楽器を操り、実際にその国の古典音楽やフォークロアを演奏すると共に、その可能性を探るべくポップス、ロック、ジャズや古楽等幅広いジャンルで国内外を問わず演奏活動を行う。またそのスキルを活かした作曲/編曲や楽曲提供も行う。2016年8月に初のパーカッションソロDVDをリリース。

<http://tateiwajunzo.wix.com/tateiwajunzo>



ご予約・お問い合わせ：まきこの会事務局
makikoclub2022@gmail.com



web site